

力御方内申

沖繩縣上清國福州上ノ間敷
在スル無人島ノ國標建設ノ
儀了付沖繩縣ノ指令ノ件
右仍面覽可也
明治十八年三月ノ

内閣書記官長



- 太政大臣爵三條實美殿
- 左大臣熾仁親王殿
- 参議伯爵大木喬任殿
- 参議伯爵藤博文殿
- 参議伯爵山縣有朋殿
- 参議伯爵西郷從道殿
- 参議伯爵川村純義殿
- 参議伯爵井上馨殿
- 参議伯爵山田顯義殿
- 参議伯爵松方正義殿
- 参議伯爵大山巖殿
- 参議子爵福岡孝弟殿
- 参議伯爵佐永高行殿

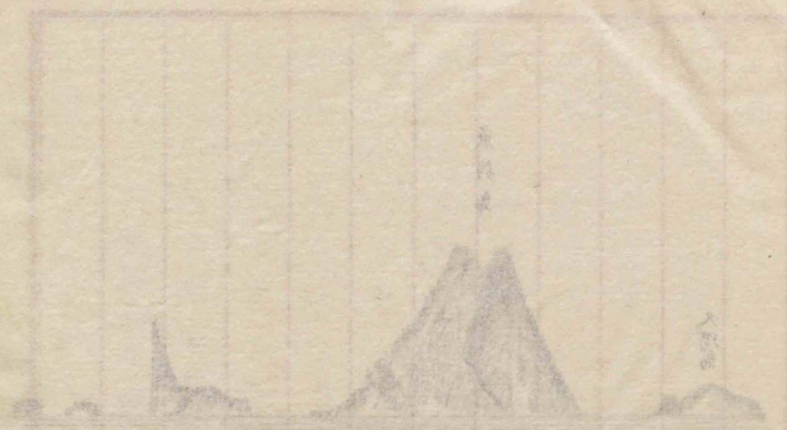
別冊魚釣、久場、久米赤島回航報告書進達仕候也

出雲丸船長

林 鶴 松

明治十八年十月二日

沖繩縣大書記官森長義殿



山 崎 山 崎 山 崎
山 崎 山 崎 山 崎
山 崎 山 崎 山 崎
山 崎 山 崎 山 崎

内務省

魚釣、夕場、夕米赤島回航報告書

日本勸船會社出雲丸船長

林 鶴 松

中野海大書院蔵書

昭和十八年十月二日

出雲丸船長

魚釣、夕場、夕米赤島回航報告書

魚釣久場久米赤島回航報告書

日本航海協會 航海報告書

魚釣久場久米赤島回航報告書

右諸島ハ屢々外船モ枉航シ其ノ景状ハ諸海路誌ニ詳悉セルヲ以テ今マ時ニ報告ヲ要スルモノナシ請フ左ニ海路誌ノ記スル處ノ要旨ト聊カ實地驗歴セシトコロヲ舉ケン
本船ハ初メ魚釣島ノ西岸ニ航着シ其ノ沿岸三四ケ一ブルノ地ニ屢々測銘ヲ試ミタルニ海底極メテ深ク且ツ其ノ浅深一ナラス四十乃至五十尋ニシテ更ニ掬錨ス可キ地アルヲ見ス
魚釣群島ハ一島六礁ニ成リ其ノ最大ナルモノハ魚釣島ニシテ六礁ハ其ノ西岸凡ソ五六里内ニ併列シ礁脈ノ水面下ニ連絡スルカ如ク六礁

ノ大ナルモノヲ「レ」ンナツクル礁ト称シ其ノ形
状絶奇ニシテ四錐形ヲ為シ空中ニ突出セリ右
ピンナツクルト本島間ノ海峡ハ深サ十二三尋
ニシテ自在ニ通航スルヲ得唯潮流ノ極メテ速
カナルヲ以テ恐クハ帆船ノ能ク通過ス可キ要
ニ非ラス

魚釣島ノ西北西岸ハ岬岸屹立シ其高サ千 百
八十尺ニシテ漸ク其ノ東岸ニ傾下シ遠ク之ヲ
望メハ水面上ニ直角三角形ヲ為セリ本島ハ極
メテ清水ニ富ミ其ノ東岸清流ノ横流スルヲ認
メタリ海路誌ニ據レハ其ノ沿岸ニ川魚ノ住ス
ルヲ見タリト本島ハ那霸河口ニ皇城ヲ距ル西
七度南二百三十海里ニ在リ

久場島ハ魚釣島ノ北東十六海里ニ在リ海中ニ
屹立シテ沿岸皆十六尺ニ内外シ其ノ絶頂ハ
六百尺ナリ本島モ魚釣島ニ同シク更ニ船舶ヲ
寄泊スヘキノ地ナシ

右ニ島ハ共ニ皆石灰石ニ成リ暖地普通樹草
ノ石間ニ茂生スルモ嘗テ有用ノ材梁ナリ其ノ
魚釣島ノ各礁ノ如キハ僅カニ海艸ノ繁茂スル
ノ更ニ樹木マルヲ見ス特ニ海島^島ノ群集スル
ハ各礁島極メテ夥シク魚釣島ノ如キッノ清流
ニ富ムモ其ノ地味恐クハ人住ニ適スルモノニ
非ラス要スルニ右諸島ハ天ノ海鳥ニ其ノ住所
ヲ賦與シタルモノト謂フモ可ナリ

本船ハ久場島ヨリ慶良間峽ニ直航セシヲ以テ

途上久米赤島ヲ認メント欲シ之ニ接航セシモ
適ヨ夜半之ヲ航過レ當時殊ニ曇天暗黒ニシテ
之ヲ實驗スルヲ得サリシハ誠ニ遺憾ナリ海路
誌ニ據レハ本島ハ一岩礁ニ過キスレテ其ノ位
地東至百廿四度廿四分北緯廿五度五十五分即
チ那霸三重城ヲ距ル西六度南百七十海里ニシ
テ四面峯岸屹立シテ其ノ高サ二百七十尺遠ク
之ヲ望メハ日本形船ノ装帆セシニ異ナラスト
本島ハ外船モ屢々之ヲ認メタルモ其ノ位地ヲ
報スル各々異ナリ蓋シ其ノ黒潮ノ中流ニ孤立
ヤルヲ以テ各船皆々其ノ推測ヲ異ニシタルヤ
必セリ

大島北東十六度五十分西經百七十五度十分

別冊魚釣、久場、久米赤島回航報告書進達仕候也

明治十八年十一月二日 出雲丸船長 林鶴松

沖縄県大書記官森長義殿

日本郵船会社出雲丸船長

林鶴松

魚釣、久場、久米赤島回航報告書

魚釣、久場、久米赤島回航報告書

右諸島ハ屢々外船モ往航シ其ノ景状ハ諸海路誌ニ詳悉セルヲ以テ今マ時ニ報告ヲ要スルモノナシ請フ左ニ海路誌ノ記スル処ノ要旨ト聊カ実地験歴セシトコロヲ挙ケン

本船ハ初メ魚釣島ノ西岸ニ航着シ其ノ沿岸三四「ケール」ノ地ニ屢々測鉛ヲ試ミタルニ海底極メテ深ク且ツ其ノ浅深一ナラス四十乃至五十尋ニシテ更ニ投錨ス可キ地アルヲ見ス

魚釣群島ハ一島六礁ニ成リ其最大ナルモノハ魚釣島ニシテ六礁ハ其ノ西岸凡ソ五六里内ニ併列シ礁脈ノ水面下ニ連絡スルカ如ク六礁ノ大ナルモノヲ「ピンナツクル」礁ト称シ其ノ形状絶奇ニシテ円錐形ヲ為シ空中ニ突出セリ右「ピンナツクル」ト本島間ノ海峡ハ深サ十二三尋ニシテ自在ニ通航スルヲ得唯潮流ノ極メテ速カナルヲ以テ恐クハ帆船ノ能ク通過ス可キ処ニ非ラス

魚釣島ノ西北西岸ハ巉岸屹立シ其高サ千百八十尺ニシテ漸ク其ノ東岸ニ傾下シ遠ク之ヲ望メハ水面上ニ直角三角形ヲ為セリ本島ハ極メテ清水ニ富ミ其ノ東岸清流ノ横流スルヲ認メタリ海路誌ニ抛レハ其ノ沿岸ニ川魚ノ住スルヲ見タリト本島ハ那覇河口三重城ヲ距ル西

七度南二百三十海里ニ在リ

久場島ハ魚釣島ノ北東十六海里ニ在リ海中ニ
屹立シテ沿岸皆ナ六十尺ニ内外シ其ノ絶頂ハ
六百尺ナリ本島モ魚釣島ニ同シク更ニ船舶ヲ
寄泊スヘキノ地ナシ

右二島ハ共ニ皆ナ石灰石ニ成リ暖地普通樹草
ノ石間ニ茂生スルモ嘗テ有用ノ材梁ナク其ノ
魚釣島ノ各礁ノ如キハ僅カニ海艸ノ繁茂スル
ノミ更ニ樹木アルヲ見ス特ニ海島〔島〕ノ群集スル
ハ各礁島極メテ夥シク魚釣島ノ如キノ清流
ニ富ムモ其ノ地味恐クハ人住ニ適スルモノニ
非ラス要スルニ右諸島ハ天ノ海鳥ニ其ノ住所
ヲ賦与シタルモノト謂フモ可ナリ

本船ハ久場島ヨリ慶良間峽ニ直航セシヲ以テ
途上久米赤島ヲ認メント欲シ之ニ接航セシモ
適々夜半之ヲ航過シ当時殊ニ曇天暗黒ニシテ
之ヲ実験スルヲ得サリシハ誠ニ遺憾ナリ海路
誌ニ拠レハ本島ハ一岩礁ニ過キスシテ其ノ位
置東経百二十四度三十四分北緯二十五度五十五分即
チ那覇三重城ヲ距ル西六度南百七十海里ニシ

テ四面巉岸屹立シテ其ノ高サ二百七十尺遠ク
之ヲ望メハ日本形船ノ装帆セシニ異ナラスト
本島ハ外船モ屢々之ヲ認メタルモ其ノ位地ヲ

報スル各々異ナリ蓋シ其ノ黒潮^{クロシホ}ノ中流ニ孤立
セルヲ以テ各船皆ナ其ノ推測ヲ異ニシタルヤ
必セリ